



# ねじれ

6月6日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

毎日のことだから水には気をつけた方がいい。

惑星探査に出る前に、壮行式の間などでしばしばそんなことを言われていたものだと、いまさらになって思い出しても仕方がない。水の中に何が混じていたのか調べたってもう手遅れなのだが、科学部のホワンが成分分析に取りかかった。女性たちの中には部屋にこもりきりになってしまった者も多いが、ホワンやリサは気にせず出てきて仕事をしてくれる。もちろんホワンが分析するのもリサが研究のプロジェクトリーダーを勤めるのにも姿形は関係ないから、当たり前と言えは当たり前なのだが。

皮膚を覆う体毛の量にはずいぶんと個人差があって、それが元々の個人の体質の差によるものなのか、水を摂取した量（正確には問題の成分を摂取した量）の差によるものなのか、そのあたりはまだ研究中だ。元々ひげが濃い男が少しだけひげが濃くなったという例もあるし、おれのように男のくせに肌がつるつるだった者が、顔から手足の先にいたるまでびっしり細かくて長い体毛に覆われてしまったという例もある。

余談だが、淡い茶色の体毛に覆われたおれの身体はなかなか見物で、シャワーを浴びる時など鏡の前でしばらく見とれてしまうこともある。こうなる前にはそんなナルシストめいた真似をしたことないのにね。見てみるかいと誘ってリサに見せたらリサも褒めてくれた。あれ以来リサとも深い仲になった。こうなる以前なら考えられないような組合せだ。そう。この異変をおれは意外と気に入っている。

もちろんみんなが気に入っているわけではない。女性の多くにとっては災厄に他ならない。それはわかっている。服で隠せる部位の体毛はともかくとして、顔や手の甲などを覆う毛が許せないようだ。初期にはみんなせっせと剃り落としていたものだが、やがてその日のうちにも伸びて来るようになり、それも髭が濃いなんてレベルではなくうっすら毛並みがわかるほど伸びるようになり追いつかなくなってきた。

また、剃れば剃るほど毛質が硬く太くなるとわかってからはそれ以上剃ることもできず、既存の脱毛クリームなども全く効かず、そうなる部屋にこもりきりになる女性隊員が（少数だが男性隊員も）増えてきた。とりわけ男のようなひげが生えてきてしまった者はどうしても許せないらしく、精神的に不安定になる者も増えている。女医のムベキは一部屋一部屋尋ねてはカウンセリングをしているらしい。

ムベキやホワンやリサは、どう心の折り合いを付けているのか、ことさらに隠そうともせず堂々と歩き回り、任務をこなしている。水の中に特殊な成分など見つからず、強いて言うなら

水そのものが特殊な作用をしているとしか思えないとかなんとか、猿みたいな顔で難しい話をしている。おれに向かって解析を依頼しながら、毛むくじゃらになる以前と同じように会話している。それはそれで不思議だ。

特にリサなどは地球にいる時にはモデルの仕事をしていたくらいで、見た目を気にしそうなものだが、いたってあっけらかんとしている。少なくとも表面上は平然としたものだ。整った美しい顔はいまや完全に毛に覆われ、バイキングでもここまで毛むくじゃらじゃないだろうと言うほどだし、手の指先まで生えた毛は実験用手袋の中でよじれて無惨なことになってしまうが、特に気にする風でもない。

そのさばさばした様子でますますリサのことが好きになってしまったということもあるが、この毛むくじゃらな状態はセックスに関してはかなりいい。すごくいい。体毛が濃くなるにつれ、より頻繁に、しかもより長い時間をかけておれたちは愛し合うようになった。毛並みに沿って手を這わせ撫でるのも、撫でられるのもとてもいい。毛足の短い部分をそっと逆撫でするのもすごくいい。こんな感覚今まで知らなかった。

長い体毛をかき分けて乳首を探し出したり、陰部の体毛がぐしょぐしょになるまで濡らしたりするのはなんて気がおかしくなりそうに燃える。交わりながら互いの体毛をつかみ握りしめたり、時にはむしったりするのもたまらない。四つん這いになったリサの後ろから入ったり、キスだけでなく歯を立て噛み付くことが多くなったりと、まあ文字通りケダモノのように愛し合うわけだ。

思い付く限りのいろいろなやり方を試し尽くした後でくたくたになって、おれたちはベッドに横たわる。リサのベッドカバーは奇妙な柄で、聞けば大英帝国の旗だと言う。リサの出身国の船につける旗なのだそう。船につける旗だって？ おれの出身国のサンノゼ公国やシリコンヴァレー共和国にはそんな旗はない。ヨーロッパの連中には独特の習慣がある。

おれたちは裸の（毛むくじゃらの）身体に巻き付けくしゃくしゃになった大英帝国旗をはずし、ベッドの上に広げてじっくり見る。リサは旗の図柄について解説してくれる。二種類の赤い十字の意味や白い斜め十字が持つ意味について。どれがイングランドで、どれがスコットランドで、どれがアイルランドで、それを足したらどうなって、と説明してくれるが、遠い星の遠い歴史の話のようでピンと来ない。

「リサ、この赤い斜めのは十字じゃないぜ」

「斜め十字なのよ」

「見るよ。ちょっとずつずれてる」

「どこ」

ぱっと見には赤い斜め十字に見えるが、実際にはちょっとずつ中心からズレている。反時計回りの方向にズレてねじれている。つまりこの旗は左右対称ではない。表と裏があるのだ。

「リサのこの毛のねじれと一緒にだ。見ろよ、おれのがこう入っていくといつも絡み付く方向が……」

「それだ！」

「え？」

おれのセクシーなジョークは無視され、リサは起き上がった。

「水よ。水の分子の非対称に気づかなかった。逆なのよ」

「へ？」

「続きはあとでね。いっぱい絡み付いちゃうから」

ベッドから飛び出し、すばやく衣類を身にまとうとリサは部屋から出て研究室に向かう。取り残されたおれは裸のまま、毛むくじらの大きなお猿みたいな姿のまま、リサのベッドであぐらをかく。よくわからないが病気の原因が解明するのかもしれない。でもおれは今のままだもいいんだがな。余計なことを言うんじゃない。そう考えながらおれはユニオンジャックを身体に巻き付ける。

(「ユニオンジャック」 ordered by sachiko-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 新作スタート。お題募集中。

---

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。  
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。  
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。  
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、  
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は  
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」  
をご活用ください。

## ねじれ

<http://p.booklog.jp/book/39733>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39733>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39733>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.